

保健体育科 学習指導案

1 対象・日時 1年A組 令和3年2月19日(金) 1校時

2 本単元で育成したい資質・能力（評価規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識 ①球技の特性や成り立ち，技術の名称や行い方，その運動に関連して高まる体力などについて理解している。 ○技能 ①ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができる。	①攻防などの自己の課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫している。 ②自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	①球技に積極的に取り組むとともに，フェアなプレイを守ろうとすること，作戦などについての話合いに参加しようとする事，一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする事，仲間の学習を援助しようとする事などをしたり，健康・安全に気を配ったりしようとしている。

3 単元「バスケットボール」について

バスケットボールは，相対する2チームが，コート内を走り回ってドリブル，パスなどでボールを進め，一定の時間内に相手ゴールにシュートして得点を競い合うスポーツである。また，個人やチームの能力に応じた作戦を立て，勝敗を争うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。そのため，基本的なボール操作の習得，仲間との連携した攻防でゲームを展開できるような動きを身に付けられるようにしたい。多様な他者と関わり合い，互いを認め合う中で，必要な動きや個に応じたパスなどの工夫につながるよう，班活動を中心に授業をデザインする。また，学習に積極的に取り組むとともに，フェアなプレイを守ろうとすること，自己の課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫し，自己や仲間の考えたことを他者に伝えられるようにすることなどができるよう，様々な工夫をしていく。

4 生徒の学びの履歴

1年生は，他者と積極的に関わり合い，互いに認め合うことを大切にして学習を進めている。陸上競技では，個人の活動と合わせて，生活班での活動を取り入れ，ICT機器を活用し，互いに撮影，確認，課題の発見と解決に向けてのアドバイスを行ってきた。球技はこれまでにネット型の「バレーボール」，ゴール型の「ハンドボール」を学習し，その中で，思考ツールを用いた考えの整理や共有，自己や仲間の課題発見・課題解決に向けたチームでの取組を行ったことで，より他者と関わり，他者の課題を自分事として捉え，援助し合って活動する姿が見られるようになってきている。

本単元では，既習のハンドボールのゴールに守備者がいない位置でシュートをすること，得点しやすい空間にいる味方にパスを出すこと，パスを受けるためにゴール前の空いている場所に動くことなどの技能や攻め方などとの共通点に気付かせ，より仲間と連携した動きにつながるような授業デザインをしていきたい。また，バスケットボールという集団競技の中で，話合いや作戦会議の際には自分の考えや相手の考えを伝え合ったり，互いを肯定し合ったりする中で，多様な他者との関わり方を学んでほしい。

5 資質・能力育成のプロセス (10 時間扱い)

次	時	評価規準 (丸番号は、2の評価規準の番号)	【 】内は評価方法及び Cと判断する状況への手立て
1	1 4	<p>知① バasketボールの歴史や特性について理解している。(○)</p> <p>知① 技術の名称やその行い方を理解している。(○)</p> <p>思① 自己の課題を発見し、練習を工夫している。(○)</p> <p>態① 安全に留意して取り組もうとしている。(○)</p> <p>思① 提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。(○)</p> <p>態① 仲間の学習を援助しようとしている。(○)</p>	<p>【学習ノートの確認】 C：実技書などを用いて歴史や特性について確認させる。</p> <p>【発言の確認】 C：実技書などを用いて技術や行い方について確認させる。</p> <p>【学習ノートの確認】 C：例を挙げたり現状と比較する機会を設けたりして、課題を見つけられるよう支援する。</p> <p>【行動の観察】 C：周りを確認してから活動するよう声かけをする。</p> <p>【学習ノートの確認】 C：課題の例を挙げ、段階的な練習方法が選択できるよう支援する。</p> <p>【行動の観察】 C：チームの中での役割を明確に捉えられているか声かけをして確認する。</p>
2	5 10	<p>知① パスを受けるための動きや、シュートにつながる動き方を理解している。(○○)</p> <p>技① ゴール方向に守備者がいない状態でシュートを打つことができる。(○○)</p> <p>技① パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動くことができる。(○○)</p> <p>思② 練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアプレイを守ろうとするなどのよい取組を見つけ、理由を添えて他者に伝えている。(○○)</p> <p>態① 積極的に取り組み、作戦などについての話し合いに参加しようとしている。(○○)</p> <p>態① これまでの学習を通して、自己の変容や取組の工夫をまとめ、評価・改善しようとしている。(○○)</p>	<p>【行動の観察・学習ノートの記述の分析】 C：TPCで撮影した動画などから実際の動きを確認し、動き方について考えさせる。</p> <p>【行動の観察・分析】 C：ボールを持ったらまずゴールを見るように声かけをする。</p> <p>【行動の観察・分析】 C：動き方の例を挙げ、ゴールに向かって攻めるよう声かけをする。</p> <p>【発言の観察・学習ノートの確認・分析】 C：具体的に伝えられるよう、どのような視点で見るべきかを考えさせる。</p> <p>【行動の観察・分析】 C：仲間の意見を聞くだけでなく、自分の意見も述べるができるよう、教師側からも問いを投げかける。</p> <p>【学習ノートの記述の分析】 C：これまでの学習ノートの記述を見直させ、自己の改善や取り組み方の工夫を確認させる。</p>

主たる学習活動	指導上の留意点	時
<ul style="list-style-type: none"> 単元の流れや見直しを確認する。 バスケットボールの歴史や特性、技術の名称について確認する。 体を温めながら、基本的な動きを確認する。 (キャッチ、パス、シュート、ドリブルなどを含むウォーミングアップ) <p>【個人やチームの課題発見】</p> <ul style="list-style-type: none"> 試しのゲーム（ハーフコート3：2，3：3） 自己やチームの課題を見つけ、今後の目標や必要な技能について考える。（TPCで撮影、振り返りに活用する。） 技能のポイントや気付いたこと、自己やチームの課題について学習ノートに記録する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【テーマ】 フリーでシュートを打つために必要なこととは</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 自チームで行う3：3の中でテーマを基に仮説を立てて、探究する。 (テーマを確認→3：3→テーマの再確認→3：3) TPCで撮影を行い、テーマの再確認や振り返りに活用する。 自チームの現時点での最適解を導き出し、Teamsに提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習ノート（学習プラン）を用いて、単元全体の流れを説明し、最終的な目標を明確にする。 怪我の防止のために手の使い方、特にキャッチの仕方を重点的に確認する。 互いにコミュニケーションを取りながら活動できるように、内容を工夫する。 チーム内でアドバイスする際には、お互いを肯定しながらよりよい手立てを考え、伝え合うよう意識させる。 授業後に学習ノートを確認し、学習したこと、気付いたこと、工夫したことを具体的に記述できるように、その都度コメントを返す。 テーマに沿った仮説をチームのホワイトボードに記入させ、チームごとの仮説を意識して活動するよう声をかける。 動画の視聴の際には、テーマに沿った動きや、自チームの仮説がうまくいっているかに着目して見るよう促す。 最適解はホワイトボードに記入し、画像に残し、Teamsで共有できるようにする。 	1 4
<ul style="list-style-type: none"> ゲーム①（ハーフコート3：3） 【課題】 現時点での最適解を他チームとの交流の中で話し、再考する。 4チームはそれぞれ1チームを二つに分け、前後半の3：3を行う。ゲームに入っていないチームは各コートに付き、前半と後半の間に最適解に沿った動きがあるかアドバイスをを行う。 待っているチームメイト、もしくはアドバイスチームにTPCでゲーム内容を撮影してもらい、さらなる最適解を導き出せたか、振り返りを行う。 ゲーム②（オールコート3：3） 【課題】 ハーフコートとの攻め方の違いや共通点を考え、オールコートでの攻め方を探る。 ゲーム①と同様に行う。 アドバイスや動画から、ハーフコートとの違いや共通点を考え、オールコートでの最適解を導き出す。 <p>【単元の振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> バスケットボールを通して学んだことや、自己の変容を振り返り、学習ノートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各班の最適解を共有のホワイトボードに提示し、考え方の共有を図る。必要に応じてその内容を詳しく説明させる。 チームごとの本時の目標を繰り返し伝え、目標と活動のずれを修正する。 アドバイスをするチームは、ゲームをするチームの今日の目標を確認し、目標の達成度や、現状を伝えられるよう指導する。 TPCでの撮影について、台数・場所などはチームのねらいに応じて工夫するよう声をかける。 提出された学習ノートや動画には、各チームの最適解の変容や全体のテーマとのずれがないよう、コメントを返す。 ハーフコートで導き出した最適解とオールコートの攻め方の違いや、共通点に着目して活動するよう繰り返し声をかける。 授業を通して学んだことや気付いたこと、自己やチームの課題解決に向けて試行錯誤した記録を残し、次回の授業につなげるよう指導する。 	5 10

6 学びの実現に向けた授業デザイン

【「学びに向かう力」が高まっている生徒の姿】

自己やチームの課題を発見し、課題解決のために仲間とコミュニケーションをとりながら、自己の役割を果たし、運動に積極的に取り組む姿。

【「学びに向かう力」を高めていくための指導と評価の工夫】

○観点別学習状況のあり方

1. 「知識・技能」の指導と評価

知識については、単元のはじめに実技書を用いてバスケットボールの歴史やルール、技術についての確認を行う。特に技術に関しては、ポイントをキーワード化して繰り返し伝え、共通認識を図る。また、学習ノートには学んだことを整理する欄を設け、自身の知識の表出に活用するよう指導する。

技能については、1年生では攻撃を重視し、空間に仲間と連携して走り込み、マークをかわしてゴール前での攻防を展開できるようにしたい。W-upで行うボールタッチから、学習内容で行うパスやシュートの動きを習得し、TPCを活用した技能の可視化によって基本的なボール操作の定着を図る。また、ミニゲームの中で、パスを受けるためにゴール前の空いている場所に動くことができているか、得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができているかなど、周りをよく見てプレイすることを生徒が互いに確認し合うようにする。知識や技能は、活動の様子を注意深く観察するとともに、学習ノートへの表出やICTを用いて撮影したものを合わせて見取り、習得状況を評価する。

2. 「思考・判断・表現」の指導と評価

自己の課題を発見し、学習した知識・技能を活用して学習課題への取り組み方を工夫し、解決に向けて考えたことを他者に分かりやすく伝えることを目指す。そのため、課題の発見・解決に向けて話し合う時間を設け、そこで出た課題に対して練習方法を考え、自分のチームに合ったものを選び実践していけるよう指導する。その際に、授業中に気付いたことや工夫したことを学習ノートに記入させ、授業後に内容の確認をし、より具体的な改善策を考えるきっかけになる問いを返したり、チームのホワイトボードに記入された内容を撮影し、チームで共有したりして、次の課題の設定や解決に役立てられるようにする。学習ノートへの表出や話合いの内容、アドバイスの具体性などを見取り、ICTを用いて撮影したものと合わせて評価していく。

3. 「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価

球技に積極的に取り組むとともに、作戦などの話合いに参加し、仲間の学習を援助しようとするを大切にしたい。毎時の話合いでは、生徒の学習ノートの記述の言葉をキーワード化して示し、具体的な意見を伝え、互いを肯定する中で進めるよう指導する。また、大きなテーマに向かって仮説を立て、検証し、仮説を再考するという繰り返しの中で最適解を導いていく過程を通じ、粘り強く学習に取り組み、他者との関わりを通して自己調整を図ることができるよう指導する。生徒の活動や話合いの様子を注意深く観察するとともに、学習ノートへの表出を合わせて評価していく。

○「考えるための技法」を用いた言語活動の充実

課題の発見・解決のために、既習の学習内容を**関連付けて**考えたり、実際の自分や仲間、チームの動きを理想の動きと**比較**・検討したりしながら、仲間とともに試行錯誤させる。

【本単元での指導事項】 ※（既習）は既習事項

- ・バスケットボールの特性や成り立ちを知り、技術の名称や行い方を理解する。
- ・ゲームを展開するための基本的な技能や、仲間と連携した動きを身に付ける。（既習）
- ・練習やゲームの場面で、最善を尽くし、フェアなプレイを守ろうとする。（既習）

【本単元における、総合的な学習の時間（TOFY）とのつながり】

- ・自己や他者、自チームなどの課題の解決方法を、実技書やICT機器を使って確認したり比較したりするなどして、多面的・多角的な視点で試行錯誤しながら見つけていくこと。